



何かがしたくてわくわくする子

3月18日に47回目の卒園式を終え、37名の子どもたちがピカピカの一年生になりました。この度卒園した子どもたちは、小さいころから虫が大好きで、ありを見つけると、園庭に腹ばいになって、蟻の行方を追っていました。年長になって見慣れない虫を見つけると、すぐに図鑑を持ち出して友だちと一緒に「これじゃない。」「ちょっと羽が違うよ」などと話し、自分たちで調べては絵を描いて記録をとるほどになりました。好きなこと、興味のあることを満足するまで楽しめる環境の中で育ってきた子どもたちは、廃材や様々な素材を使った制作あそびなどでも、友だちと協力したり、工夫したりする楽しさを感じたり、運動あそびにも積極的に挑戦し、跳び箱6段や竹馬、フープ回しなど最後まであきらめないで取り組む強い心が育まれてきました。保護者の方もそういったことを感じてくださっており、卒園式の謝辞の中でも運動会などの行事の本番はもちろん感動だったけれど、本番までにいろいろなことへ挑戦し、努力した経験こそが子どもたちの自信につながっていること、あそびの中にある学びを大切に、一人ひとりの個性を尊重した関わりをしていることを話して下さり、すいこうの大切にしていることを理解して下さっていたことを大変嬉しく思い、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

そして、桜満開の4月ご入園、ご進級おめでとうございます

改めて、年度の初めですので、保護者の皆さんにすいこうが大切にしている保

育について、お伝えします。

すいこうでは、皆さんの大切なお子さんをお預かりしている間に、『感謝と思いやりのある、自主的な行動のとれる子』に育ててほしいと願いながら、あそびを進めております。その教育・保育理念に基づいて、毎年具体的なテーマを掲げておりますが、今年度は昨年同様、「子どもにも 保育者にも 保護者にも楽しく納得できる運営」です。すいこうは、子どもたちにとって何より楽しいところでなくてはなりません。卒園した年長さんは、冒頭でお伝えした通り、何をすることも積極的に楽しく取り組み、小さなお友だちにも自然と優しく関わり、クラスのお友だちとは、時折思いがぶつかることもありましたが、お互いに譲り合いながら、主体的にあそびや生活に関わっていました。こういった力は、大きくなるにしたがって自然に身についたものではありません。いつもお伝えしていますが赤ちゃんの時から関わりが大切なのです。赤ちゃんたちは、見えたもの、聞こえたもの、触れたものなど何にでも興味を示し、何だろう、掴んでみよう、と手を伸ばし、はいはいして常に主体的に動いています。好奇心でいっぱい赤ちゃんたちの思いに、まわりの大人が「何があるのかな」「触ってみたいね」「何か聞こえるよ」などと思いを汲み取り、丁寧に関わっていくことで、赤ちゃんたちは、大人が好きになり、1歳になるころには、信頼関係を築いた安心できる大人のもとで、さらに探索活動を広げていくのです。信頼関係があれば、2歳児さんは「いやだい



2023年 4月の園だより



やだ」の気持ちも存分に発揮し、周りのおとながゆっくり、丁寧に返してあげることで、少しずつ優しい気持ちも育まれてきます。乳児期にそういったさまざまな経験を大人のあたたかなまなざしの中で繰り返すことにより、年少さんごろになると自分は何でもできるという自己肯定感が育まれ、年中さんでは、友だちと一緒に遊ぶことが楽しくなり、そして年長さんになるころには、考えることが楽しく、友だちと協力しあって何かをやり遂げることが嬉しく、友だちと意見が違ったり、問題が起きても自分で解決する力、また、相手を思う優しい心が育まれてくるのです。すいこうは、そういう目に見えない力を育むことを大切にしていますが、それは、教えられて育つ力ではなく、信頼できる大人に見守られ、大好きな友だちとのあそびの中で育まれていく力なのです。すいこうの子どもたちは、毎日が楽しく、何かをしたくてうずうずしているのです。これからも「何かしたくてたまらない。わくわくするね。」そんな気持ちを持った子どもに育てたいと思っています。

およそ3年間、コロナと共存しながらも、今しかできないことに取り組んできましたが、5月からはインフルエンザと同等の扱いになります。今まで自粛してきたふれあいサロンなど皆さんとお子さんのことを語る機会をもち、公民館まつりなど地域との交流に参加して、皆さんとのつながりを取り戻していきたいと思っております。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いたします

園長 上原玲子

すいこう認定こども園



アトリエでの異年齢の関わり

幼児クラスには、『アトリエ』と言う言葉がすっかり定着してきました。「今日は、アトリエで色水実験をする」などと目的をもって登園してくる子どももたくさんいます。

そんなアトリエは、子どもたちの大好きな空間です。アトリエには、乳児組の小さなお友だちもきます。いつもお兄さんたちに手助けしてもらっている年少さんも赤ちゃんたちが来ると、絵の具あそびを手伝ってあげたり、汚れた手を拭いてあげたりしています。そういう経験が増えることで、アトリエだけではなく、園庭に出ても小さなお友だちの手を引いて遊んであげている姿がたくさん見られるようになりました。アトリエは、制作活動だけではなく、子どもたちの健やかな心の成長にも大きな役割をしています

ドキュメンテーションについて



昨年度は、各クラスで子どもたちの遊んでいる写真に言葉を添えたドキュメントの配信が十分ではなく、「日頃の様子かわからない」といった声をたくさん聞かれ、大変申し訳なく思っています。今年度は、アトリエ以外でも子どもたちの楽しんでいる様子をお伝えできるよう考えておりますが、ただ楽しんでいる様子だけではなく、それぞれの年齢の発達であったり、心の動きであったり、大人にはない感性を皆さんに伝えたいと思いますので、全てのお子さんが写っていないことがあるかもしれませんが、自分のお子さんが写っていないと残念に思われる方もおられますが、「今こんなことに興味を持っているんだ」と、その時々成長を理解し、楽しんでいただけると幸いです。幼児クラスでは、職員も限られているため、頻りに配信することができませんが、子どもたちの驚き、発見など楽しい姿を見つけた時は、タイムリーに配信いたしますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

